

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372001384		
法人名	株式会社ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	しんさかえケアセンターそよ風 こまれび		
所在地	愛知県豊橋市新栄町字鳥瞰111番地		
自己評価作成日	2020/11/17	評価結果市町村受理日	令和3年6月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2372001384-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2372001384-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和3年2月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

現在、ご家族様の面会等が厳しくなっている状況が続いているので、月に一度の報告書の作成や何かあった際は蜜に連絡体制が取れるように努めている。  
 美味しい食事を召し上がって頂きたいので、他事業所では発注で済ませている物を2日に1回スーパーで直接買いに行っている。外食が難しい中、お持ち帰りや宅配を利用し、お客様に楽しんで頂いている。頻度は月に1回等ではなく、頻回に実施している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは、デイサービスと併設していることで、デイサービスと連携した支援が行われている。今年度は感染症問題があることで、事業所間での交流が困難になっているが、例年は、デイサービスで様々な行事が行われる際には、ホームからも利用者が参加する機会がつけられている。利用者の中には、デイサービスを利用しながら在宅での生活を継続し、利用者や家族の状況や意向等に合わせてグループホームに生活場所を移行した方もあり、利用者にとっては、円滑な生活場所の移行にもつながっている。外出については、現状、利用者の外出が困難になっているが、ホーム内が広い空間がつけられていることもあり、利用者が日常生活の中で機能訓練につながるような取り組みが行われている。また、職員の資質向上につながる取り組みについては、定期的な職員研修の機会がつけられている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社からの理念等の情報を共有し、実践に繋げていけるよう日々コミュニケーションを取っている。	今年度から事業所全体で新たな理念がつけられており、各フロア内にも掲示を行い、理念の共有につなげている。また、職員間で支援内容の話し合いを行い、理念の実践につなげている。	理念は、事業所の支援の基本方針でもあるため、新たな理念の共有と実践について、職員間での継続的な取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ウイルスの蔓延により、地域との繋がりは現在取辛い状況が続いている。外出が出れる程度まで落ち着けば地域の一員として交流を再開したい。	感染症問題があることで、地域の方との交流が困難になっているが、地域の町内会に入り、町内会の会合にホームからも参加する交流を継続している。例年は、併設事業所の行事等を通じた地域の方との交流も行われている。	地域の方との交流が困難になっている状況が続いているため、感染症の状況もみながら、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	上記と同じで地域貢献は現在出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	上記と同じで運営推進会議は実施出来ない	今年度の会議については、書面による実施となっている。会議を開催する際にも出席者が限られた範囲の方でもあったことで、会議を再開する際には、関係の方への呼びかけを行う方針でもある。	会議を開催していた際にも、出席者が限られていた状況でもあったため、今後、会議を再開する際には、地域の方や家族への呼びかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	何かあれば市へ報告する手段は持っている。	広域連合や地域包括支援センターとの情報交換や講習会等への参加については、併設事業所を通じて行われることが多いが、ホームからも随時の関係部署との情報交換等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日々ラウンドや職員へ聞き取りを行い、身体拘束をしないケアの理解を進めている。玄関は安全上キーロックにて管理している。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者の状況等にも合わせて外に出る等の対応も行われている。また、毎月の会議を通じた身体拘束に関する検討や定期的な職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年間研修スケジュールで虐待についての研修は毎年実施している。研修以外に日々の業務の中でも伝え防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年間スケジュールでの研修制度には入っていないが、権利擁護に関する制度については職員とのコミュニケーションで話す場面がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明する機会は必ず設け、納得を頂いた上で署名、押印して頂けるよう徹底している。改定時も説明し必ず書面で頂けるように徹底している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	本社に苦情・事故相談窓口を設置しており、契約時に必ず伝えている。報告を受ければ必ず事業所内で話し合い、改善策を出している。それが運営に反映している。	現状、家族との交流が困難になっているが、ユニット毎に程便りを作成する取り組みを継続しており、家族への情報発信が行われている。また、家族からの要望等については、運営法人の窓口を明示する取り組みも行われている。	家族との交流の取り組みについては、以前からテーマでもあったため、今後の感染症の状況たもみながら、家族との交流が行われることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員とのコミュニケーションは良くっており、意見や提案を聞頂くと出来る限り行えるよう調整している。まずはやってみるという姿勢。	ホームでは、随時の職員間での情報交換の機会をつくっており、管理者が把握した職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、職員間での役割分担や職員との面談の機会もつくられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員のスキルやモチベーションについては上司へ報告は怠っていない。年に1度の給与更新で反映が出来るよう事業所としての利益も追及している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ウイルスが蔓延する中、研修の機会が0になったと言っても過言ではない。しかし実践という形では難しいが、リモートを使用した研修が新たに始まりスキルアップを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	そよ風グループは愛知県以外にも全国展開しており、近くの事業所とリモートを通じて勉強会や話し合いを行い質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご入居前の面談時に、本人が困っている事や家族の要望も聞き、その中で施設でどの程度実施する事が出来るか提示し実施するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	15と同じ		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初めてご利用となる際は新しい環境で生活がスタートするので、不安なことが出る可能性が高いと伝え、出来る限り本人様の負担にならない、気分転換が図れるよう入所時の生活は特に気を付けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	全員は当てはまらないかもしれないが、出来る限り一緒に生活する場で生活支援として行えるよう支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	18と同じ ご家族との距離が近く接する事が出来るよう、コミュニケーションを大切にしている。電話連絡も良くするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在、コロナ禍の中、難しい状況	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には、併設事業所や関連事業所に関係の近い方が利用しており、可能な範囲で交流が行われている。また、例年は、家族との外出を通じた交流も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士で関係構築できる方より、一人でいっちゃう方と関りを持つように努めている。また、皆の輪に入れるよう支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了となれば、必要が無い時は連絡する事は無いが、いつでも連絡いただけるような関係は家族と築けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り本人本位でサービス提供したいが、集団生活という環境の中、制限はある。	職員全員で利用者に関する意向等の把握が行われており、日常の申し送り等を通じて、職員間での共有につなげている。また、カンファレンスも行いながら利用者に関する意向等の検討を行い、日常の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	契約前の面談や利用中にご本人様にこれまでの生活歴等を聞き、サービス利用に繋げている場合がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの生活状況は把握しており、そこからどのような支援が行えるか日々考え実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	外出がしたい希望が多い中、現在自粛をしている状況。少しでも気分転換をして頂くために、ベランダへ出て過ごす等、代替え案も実施し状況検討している。	介護計画については、4か月を基本に見直しが行われており、利用者の変化等に合わせた対応が行われている。日常的に介護計画の内容に合わせたモニタリングを実施しながら、介護計画の見直しに合わせた評価につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子で伝えなければならない事由が発生した時はケアカルテを基に入力し介護計画の見直しに貢献している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	現在の状況から支援できる内容に限りが多いが出来る限り柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源との関りが現在ない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は必ず聞き取り調査を行い、本人、ご家族本位にて決定して頂いている。かかりつけ医と事業所との関りも適切に取れている。	協力医による定期的な医療面での支援が行われているが、利用者の中には今までのかかりつけ医を継続しており、家族の協力を得ながら受診が行われている。また、訪問看護による支援や緊急時等には、併設事業所の看護師による支援も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護が週1で来られるので、その際は詳細を報告できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	対応したことが無い為、不明		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した時の方針については、ご入居前からご説明し、納得いただいた上で入居頂いている。	利用者の中には、身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、ホームで支援可能な取り組みが行われている。利用者の看取り支援については、現状行われていないことを説明し、段階に合わせて次の生活場所への移行が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生に備え、ある程度の職員は実践できるも、全てとの質問には難しいとしか答えようがない状況なので、努力目標である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域との協力関係は現在不明である	年2回の避難訓練が行われており、夜間を想定した訓練や併設事業所との合同の訓練も実施し、職員間での連携に取り組んでいる。地域の方との災害に関する情報交換等も行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	消防署との連携を行う通報装置が、ホーム建物の1階にあることで、夜間の対応に困難が予測されるため、職員間での継続した確認等の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お客様としての対応を心掛けている。	職員による利用者への言葉遣いや対応等で管理者が気になった際には、職員に注意を促す等の対応が行われている。また、利用者の呼び方等についてもプライバシーに配慮した取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションの中で聞き出し自己判断、自己決定が出来るよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り利用者本位で過ごして頂きたいが、職員が手薄な時間帯は難しい時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご家族、ご本人様のご持参された衣類等で似合う選択はしている、もしくは本人様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	衛生問題もあるので、キッチンへ立つことは難しいが、物を運んで頂いたり机を拭いてもらったりできる範囲でお手伝いをして頂いている。好みも出来る限り調整している。	運営法人の管理栄養士が作成したメニューを基本に調理が行われているが、利用者の好みや嗜好等に合わせた対応も行われている。利用者も現状で可能な範囲でできることに参加する取り組みが行われている。また、職員も利用者と食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	おやつも含めると5食提供する機会があるので、カロリーや水分量等、ADLが維持、向上が図れるよう調整し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の声かけは必ず行っている。一人で難しい方は介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	定時誘導や本人希望にて誘導等、出来る限りオムツやリハパンの使用を減らす取り組みは行っている。	排泄記録を残し、申し送り等を通じて情報を共有し、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に、日中と夜間に対応を変える等、排泄状態の維持、改善につなげている。また、看護師との排泄に関する支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	野菜は出来る限り多く摂れるよう気を付けている。また、自力で排泄が困難な方は整腸剤を処方し下剤を極力使用しないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	残念ながら、特別なことが無い限りは職員都合での時間で入浴介助している。個々に沿った支援は現在難しい状況。	利用者が1日おきの週3～4回の入浴ができるように支援が行われており、利用者の意向等に対応した支援も行われている。利用者の身体状態に合わせた職員2名での支援も行われている。また、入浴剤の活用も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人生活習慣が異なるので早く眠る方や遅めで寝る方がいらっしゃるため、出来る限り合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全員が服薬の目的、副作用を理解しているかは現状出来ていないと考えている。薬を日中帯でも扱う時間を設ける事を検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	趣味は無いという方もいらっしゃるが、出来る限りメリハリのある生活が行えるよう支援している。外出したいが現在は感染症ではない状況。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出は現在感染症で実施していない。ご家族が病院受診対応の方のみ外出されている現状である。	感染症問題が続いていることで、利用者の外出が困難になっており、現状、医療機関への受診を通じた外出以外、行われていない。現状の取り組みとして、ホームのリビングから屋上に出て過ごす機会をつくっている。	利用者の外出が行われていない状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、可能な範囲でも外出の機会が増えることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	認知症や進行具合等によりお金を本人に持たせても良いか判断している。他者へお渡しする方についてはやむを得ないが管理させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙のやり取りについては、ご家族様許可の元、可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日ラウンドすることでお客様が心地よい環境整備に津トンている。	ホーム内は広めの空間がつけられていることで、外出が困難になっている中でも、利用者の歩行訓練等が可能なスペースが確保されている。リビングや通路の壁面には、利用者の作品や写真等の掲示が行われてあり、アットホームな雰囲気がつくられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	机、ソファ、居室等、仲の良いお客様同士が過ごせる環境整備は出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所前には現在家で使用している家具、寝具等搬入してもらえると本人もご自分の部屋だと理解し安心することを伝え、ご家族判断にて持参いただいている。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせながら、馴染みの物や冷蔵庫等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者の中には、意向や状況等にも合わせて、ベッド以外で生活している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの配置や物の配置で一人で安全に移動が出来る事で自立した生活が送れるような構造となっている。		